

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和5年8月10日
【四半期会計期間】	第71期第1四半期（自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日）
【会社名】	日本基礎技術株式会社
【英訳名】	JAPAN FOUNDATION ENGINEERING CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 中原 巖
【本店の所在の場所】	大阪市北区天満一丁目9番14号
【電話番号】	06（6351）5621（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役執行役員 事務管理本部長 田中 邦彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区天満一丁目9番14号
【電話番号】	06（6351）5621（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役執行役員 事務管理本部長 田中 邦彦
【縦覧に供する場所】	日本基礎技術株式会社東京本社 （東京都渋谷区幡ヶ谷一丁目1番12号） 日本基礎技術株式会社中部支店 （名古屋市北区平安二丁目4番68号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 第1四半期連結 累計期間	第71期 第1四半期連結 累計期間	第70期
会計期間	自令和4年 4月1日 至令和4年 6月30日	自令和5年 4月1日 至令和5年 6月30日	自令和4年 4月1日 至令和5年 3月31日
売上高 (百万円)	5,561	5,431	23,908
経常利益 (百万円)	215	389	1,008
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	109	274	526
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	9	463	615
純資産額 (百万円)	20,529	20,830	20,627
総資産額 (百万円)	29,260	29,854	30,235
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	5.20	13.72	25.40
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.16	69.77	68.22

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、5類感染症に引き下げられたこともあり、社会活動の持ち直しが見られた。

しかしながら、ロシア・ウクライナ情勢の長期化により、資源価格やエネルギー価格の高騰が続き、世界経済は先行きの読めない厳しい状況が続いている。

この間、国内建設業界においては、国土強靱化の基本方針に沿った施策が進められ、関連する公共工事は底堅く推移しているところである。また、喫緊の課題として、働き方改革推進の中で、長時間労働の解消等があり、その実現は急務となっている。

かかる中、当社グループは、新たに中期経営計画(2023年度～2025年度)を策定して、具体的施策「技術の伝承と生産性向上」、「社内業務・社内システムの見直しによる働き方改革の推進」を、全社挙げて取り組んでいる。

この結果、当第1四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなった。

財政状態

当第1四半期連結会計期間末の総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて3億81百万円減少し、298億54百万円となった。その主な要因として、現金預金および投資有価証券が増加したが、受取手形・完成工事未収入金等が減少したこと等によるものである。

負債の残高は、前連結会計年度末に比べて5億85百万円減少し、90億23百万円となった。その主な要因として、支払手形・工事未払金等が減少したこと等によるものである。

純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて2億3百万円増加し、208億30百万円となった。その主な要因として、その他有価証券評価差額金が増加したこと等によるものである。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は69.8%となり、前連結会計年度末と比べて1.6ポイントの上昇となった。

経営成績

当第1四半期連結累計期間の業績としては、国内においては、首都圏エリアの一部大型プロジェクトが終息に向かっていていることから、売上高54億31百万円(前年同四半期比1億30百万円減)となった。一方、米国現地法人JAFEC USA, Inc.において、前期からの繰り越し工事が順調に進捗したことから、連結経常利益は3億89百万円(前年同四半期比1億74百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億74百万円(前年同四半期比1億65百万円増)となった。

(2) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は17百万円であり、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

なお、連結子会社においては、研究開発活動は特段行われていない。

3【経営上の重要な契約等】

特記事項なし。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	86,853,100
計	86,853,100

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (令和5年6月30日)	提出日現在発行数(株) (令和5年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	29,346,400	29,346,400	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数100株
計	29,346,400	29,346,400	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
令和5年4月1日～ 令和5年6月30日	-	29,346,400	-	5,907,978	-	5,512,143

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（令和5年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

令和5年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 9,333,400	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,937,200	199,372	同上
単元未満株式	普通株式 75,800	-	-
発行済株式総数	29,346,400	-	-
総株主の議決権	-	199,372	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1,700株(議決権の数17個)含まれている。

【自己株式等】

令和5年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本基礎技術(株)	大阪市北区天満一丁目9番14号	9,333,400	-	9,333,400	31.8
計	-	9,333,400	-	9,333,400	31.8

(注) 令和5年6月30日現在における当社が保有する自己株式数は9,333,675株である。

2 【役員の状況】

該当事項はない。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（令和5年4月1日から令和5年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（令和5年4月1日から令和5年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和5年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和5年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	5,806,553	6,308,333
受取手形・完成工事未収入金等	7,049,186	5,510,194
有価証券	402,175	414,967
未成工事支出金	315,455	353,260
材料貯蔵品	96,436	72,988
その他	69,438	220,940
貸倒引当金	10,000	8,000
流動資産合計	13,729,247	12,872,685
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	4,146,075	4,132,777
土地	4,435,422	4,435,422
建設仮勘定	-	341
その他(純額)	2,746,563	2,925,877
有形固定資産合計	11,328,061	11,494,418
無形固定資産	329,066	323,861
投資その他の資産		
投資有価証券	4,411,322	4,730,542
その他	465,814	460,559
貸倒引当金	27,585	27,895
投資その他の資産合計	4,849,551	5,163,205
固定資産合計	16,506,680	16,981,485
資産合計	30,235,927	29,854,170
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	4,154,969	3,502,637
短期借入金	3,100,000	3,100,000
未払法人税等	227,933	112,151
未成工事受入金	68,530	70,721
完成工事補償引当金	1,000	1,000
賞与引当金	262,100	152,500
工事損失引当金	2,202	-
その他	858,467	1,095,464
流動負債合計	8,675,203	8,034,474
固定負債		
退職給付に係る負債	59,793	29,671
その他	873,673	959,544
固定負債合計	933,466	989,215
負債合計	9,608,670	9,023,690

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和5年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和5年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,907,978	5,907,978
資本剰余金	5,512,143	5,512,143
利益剰余金	12,861,201	12,875,560
自己株式	4,447,907	4,448,031
株主資本合計	19,833,416	19,847,650
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,753,970	1,986,104
土地再評価差額金	703,294	703,294
為替換算調整勘定	167,194	238,337
退職給付に係る調整累計額	89,640	61,642
その他の包括利益累計額合計	793,840	982,830
純資産合計	20,627,257	20,830,480
負債純資産合計	30,235,927	29,854,170

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)
売上高		
完成工事高	5,561,646	5,431,252
売上原価		
完成工事原価	4,817,428	4,458,001
売上総利益		
完成工事総利益	744,218	973,250
販売費及び一般管理費	629,104	697,860
営業利益	115,113	275,389
営業外収益		
受取利息	72	55
受取配当金	40,702	41,989
為替差益	50,091	64,507
その他	13,016	10,575
営業外収益合計	103,882	117,127
営業外費用		
支払利息	2,072	2,508
支払手数料	1,887	-
その他	12	268
営業外費用合計	3,972	2,777
経常利益	215,023	389,740
特別利益		
固定資産売却益	2,608	-
特別利益合計	2,608	-
特別損失		
固定資産売却損	30	-
固定資産除却損	54	-
特別損失合計	85	-
税金等調整前四半期純利益	217,546	389,740
法人税等	107,802	115,213
四半期純利益	109,743	274,527
親会社株主に帰属する四半期純利益	109,743	274,527

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)
四半期純利益	109,743	274,527
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	76,773	232,134
為替換算調整勘定	19,195	71,142
退職給付に係る調整額	4,626	27,998
その他の包括利益合計	100,595	188,989
四半期包括利益	9,148	463,516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,148	463,516
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用の計算については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっている。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっている。

(四半期連結貸借対照表関係)

貸出コミットメント契約

当社においては、自己株式取得と運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と貸出コミットメント契約を締結している。

当四半期連結会計期間末における貸出コミットメント契約に係る借入未実行残高等は次のとおりである。

	前連結会計年度 (令和5年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和5年6月30日)
貸出コミットメントの総額	4,000,000千円	4,000,000千円
借入実行残高	3,100,000	3,100,000
差引額	900,000	900,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)
減価償却費	220,998千円	229,227千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和4年6月29日 定時株主総会	普通株式	278,001	13.0	令和4年3月31日	令和4年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和5年6月29日 定時株主総会	普通株式	260,168	13.0	令和5年3月31日	令和5年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)

当社グループにおける報告セグメントは「建設工事」のみであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略している。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報
 財又はサービスの種類別の内訳

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)
法面保護工事	915,054	721,708
ダム基礎工事	337,251	224,895
アンカー工事	915,826	1,089,842
重機工事	1,471,784	1,891,733
注入工事	1,017,390	762,955
維持修繕工事	11,794	11,008
環境保全工事	197,568	69,586
その他土木工事	413,728	369,019
建設コンサル・地質調査その他	255,136	264,411
顧客との契約から生じる収益	5,535,536	5,405,160
その他の収益	26,110	26,091
外部顧客への売上高	5,561,646	5,431,252

収益認識の時期別の内訳

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)
一時点で移転される財	924,947	872,983
一定の期間にわたり移転される財	4,610,588	4,532,176
顧客との契約から生じる収益	5,535,536	5,405,160
その他の収益	26,110	26,091
外部顧客への売上高	5,561,646	5,431,252

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5.20円	13.72円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	109,743	274,527
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	109,743	274,527
普通株式の期中平均株式数(株)	21,104,556	20,012,837

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

該当事項なし。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和5年8月8日

日本基礎技術株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡本 伸吾 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉永 竜也 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本基礎技術株式会社の令和5年4月1日から令和6年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（令和5年4月1日から令和5年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（令和5年4月1日から令和5年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本基礎技術株式会社及び連結子会社の令和5年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。